

「世論形成、発信が役割」

AMDA
菅波代表
メディアの公共性を熱弁

17日に開幕した第59回新聞大会（日本新聞協会主催）で、国際医療援助団体「AMDA」（本部・岡山市櫛津）の菅波茂代表が「人道支援におけるメディアの役割——AMDAの経験を通じて」と題して記念講演。「AMDAは、メディアなくしてここまで来られなかった」などと熱弁を振るった。

【若狭幸治】

AMDAは菅波代表が84年8月に設立。現在は29カ国に支部を持ち、アジア、アフリカ、中南米などで戦争や自然災害、貧困に苦しむ人々に対する緊急医療支援と地域医療・地域開発活動をしている。

講演で菅波代表は「AMDAは『困った時はお互いさまの相互扶助』。各地に支部があり、共同体の論理で相手にメッセージを伝える」と説明。カンボジア難民支援のポ

ランティアとして自ら現地に入った79年、全国紙が「日本の若者にボランティア精神はないのか」とキャンペーンを展開したことを紹介し、「20年後にNPO法案ができた。メディアがなければ個人ボランティアが法律になるまでに至らなかった。社会の出来事を捕らえて世論形成をし、全国に発信することが公共財としての新聞の役割だ」と語った。

また、「メディアの公共性は知性にある。今ある理念、常識の中にある仮説を検証することで、新しい理念、常識をつくり上げることをお願いしたい」と注文した。

新聞大会で記念講演するAMDAの菅波茂代表＝岡山市の岡山シンフォニーホールで

